

## 留学報告

高度口腔機能教育研究センター 日吉 巧

2023年3月より、アメリカのボストンにある、Harvard University School of Engineering And Applied Sciencesへ留学する機会を頂きました。留学の出発はトラブルの連続で、意気揚々と乗り込んだ飛行機が遅延し、乗り継ぎのカナダで妻と3歳の娘と一緒に取り残されました。そのカナダの空港では銃を持った男が現れ、パニックの中訳も分からず必死に逃げました。パトカーが列をなしたあの光景は一生忘れられません。

出鼻は挫かれましたが、滞在先のボストンは治安が良く、安心して生活しています。ボストンはハーバード大学やマサチューセッツ工科大学などトップクラスの名門校が多く存在する世界有数の大学都市です。また、ボストンはアメリカ独立戦争の舞台であり、ボストン茶会事件など様々な歴史的な出来事を肌で感じられる素晴らしい街です。多くのアメリカ人が観光に訪れる都市で、さながら日本の京都といったところでしょうか。

留学中、最も頭を悩ませていることは、アメリカの高い物価と円安です。借りたごく普通のア

パートは新潟の6倍の家賃が掛かり、体調を崩し受診した病院では、日本で数千円の血液検査が20万円(!)も掛かりました。そんな中、毎日のご飯やお弁当をやりくりしてくれる妻には本当に感謝しています。

生活は大変ですが、留学先では非常に充実した生活を送っています。所属しているSamir Mitragotri教授が主宰する研究室では、医療工学に関する研究が行われ、特に薬物浸透促進剤や、免疫細胞を用いた薬物の局所投与方法が開発されています。最初は医療工学については全くの素人で、言葉の壁もあり落ち込む日々が続きましたが、優しいラボメンバーの助けを借り、何とか楽しく研究を行えるようになりました。医療工学分野の発展は目覚ましく、口腔内疾患への応用の道を見つけようと日々勤しんでいます。

最後になりますが、留学先をご紹介いただきました中島麻由佳先生をはじめ、多くの先生方にご支援を頂戴し留学が実現したことに、心より感謝申し上げます。



Harvard Yardで娘と

Mitragotri教授のご自宅にてラボメンバー集合写真  
筆者：前から2列目右から3番目